

# 保育者1100人の声が県内に響く

## ★保育拡充請願、県から市町に広がる!

2023年3月17日、三重県議会でビックリする事件がおこりました。保育の「国への意見書提出を求める請願」が県議会で全会一致で採択となったのです。請願者は三保連（三重県保育団体連絡会）会長とみえ労連議長です。その後、「それでは県に続いて市町で」と、各地域の個人加盟の「自治労連保育分会」や「ひよこ会おおばこ」、「福祉保育労・鈴鹿」と地域労連の皆さんが奮闘しました。今回の運動の広がり決め手は、独自のアンケートを県内保育所においてQRコードで回答いただく仕組みです。こうした活動に延べ400名が参加しました。

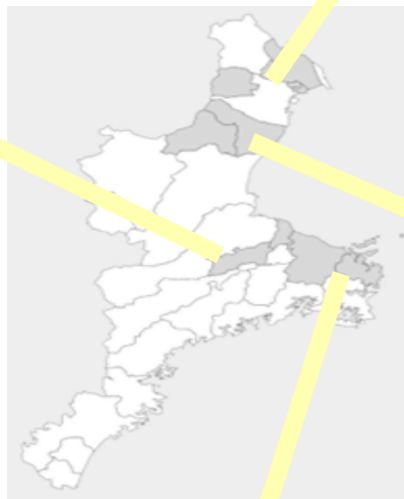
### 議決議会

- ・三重県
- ・桑名市
- ・菰野町
- ・鳥羽市
- ・鈴鹿市
- ・朝日町
- ・東員町
- ・明和町
- ・多気町
- ・川越町
- ・亀山市
- ・伊勢市

### 桑員、三四地域での保育請願の取り組み

9月22日・菰野町、12月12日・朝日町、同15日・東員町と川越町議会にて可決されました。

四日市市議会の教育民生委員会では、ひよこ・こっこ保育園園長の意見陳述が見事で、反対意見無しでしたが、前日に政府が発表した「こども未来戦略」案の影響を受け、「継続審査」となりました。この取り組みで、請願者や紹介議員の依頼を検討している時、19回を迎えた自治体キャラバンを通して市町の幹部の方とも友好的な関係になっていることや保育園職場で素晴らしい保育の実績を積んできていること等が、大きな力になっているのだと感じました。（北勢労連・芳野）



### 多気・明和町でも

11月15日・明和町、多気町議会で請願が採択されました。3月議会の三重県、9月議会での市町議会での採決を受けて、議員と議長さん等に議決を申請しました。幸い2町議会の議決に。（松阪労連・中川）

### 鈴鹿・亀山市議会で請願可決

9月26日・鈴鹿市、12月19日・亀山市で保育請願が採択されました。

70年以上変わらない国の保育基準（0歳児3人、1・2歳児6人、3歳児20人、4・5歳児30人）と低賃金、そんな中で保育士さんたちは少しでもいい保育をしたいと懸命に頑張っています。みえ公共一般鈴鹿分会の元保育士さんたちがアンケートで集めた現場の声は切実なものでした。この声を議会に届けようと、元保育士さんたちは各議員の部屋をたずねて訴えました。議会請願などしたことがなかったので手続きなどでずいぶん苦労しましたが、いろんな人の知恵と協力で、ついに請願が採択されました。（鈴鹿労連・向井）



9月5日 鈴鹿市議会

### 鳥羽・伊勢市

鳥羽市議会・9月25日、伊勢市・12月20日で採択されました。現場の保育士さんを先頭に、多くの皆さんの力で両議会を動かすことができました。アンケートでは、「手が足らなくて、ついつい子どもたちにつらくあたってしまう。」「悩みを聞いてもらったり、仲間同士での話し合いの時間もじっくりとれない。」と、悲痛な声のかずかず。あきらめずに運動を続けてきた努力がようやく実を結びました。また、各議会や議員さんへのアプローチも様々な色合いがあることがわかり、事前にしっかりと打ち合わせをすることの大事さを学びました。



12月20日伊勢市議会

《南勢労連 西岡》

# みえ労連

2024年  
春  
76号

三重県労働組合総連合  
〒514-0015 三重県津市寿町7-50  
みえ平和と労働会館 TEL 059-223-2615  
E-mail : mieroren@circus.ocn.ne.jp

## 第19回(2023)自治体キャラバン

### ★多彩に県市町との懇談実施



12月25日・三重県

今年度で19回を迎える自治体アンケートは、①自治体で働く正規・非正規労働者の処遇、②憲法の生存権条項を自治体行政に生かす保育・学童、生活保護、公契約や自治体病院はどうなっているか、③人口減少やコロナ対策などの自治体の課題を把握し率直な懇談を実施します。

アンケートを基にした30自治体との懇談は11月からスタートし、地域労連のメンバーを中心に参加し、地域で働き・くらし・生活するものの声が自治体に届く懇談を実施しました。



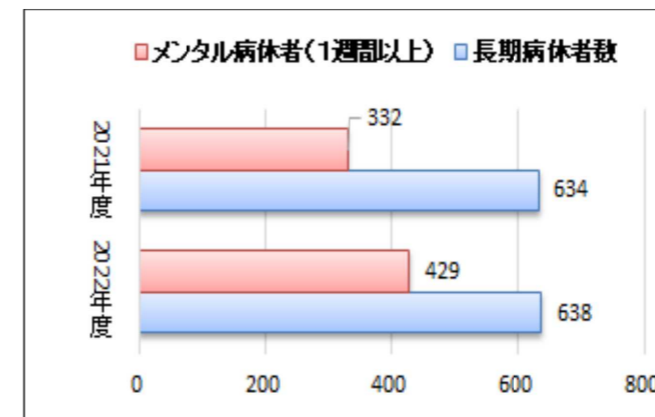
11月16日 伊賀市



11月15日 四日市市

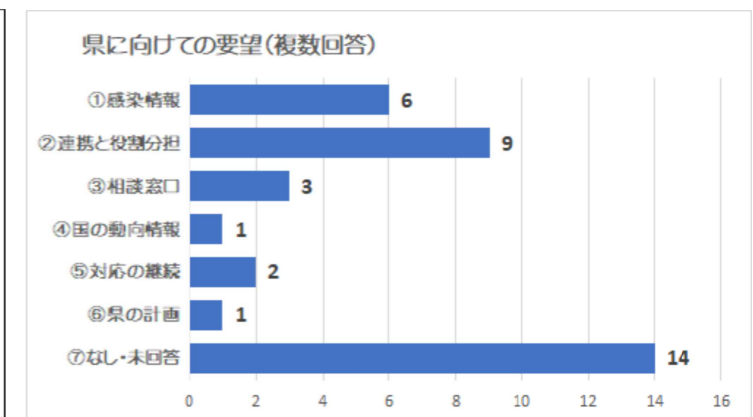
### ★県内でメンタル休職者急増

長期休職者は高止まりとなっているものの、メンタル休職者が429人と急増しています。



### ★コロナ5類後の県に向けての要望

コロナ後の市町の三重県への要望は、9自治体が「連携と役割分担」、6自治体が「感染情報の提供」と回答しました。



## ★能登半島震災支援を早く

日頃のご奮闘に敬意を表します。

1月1日、能登半島を震源とする大きな地震が発生しました。石川県労連5日に石川県労連対策本部を立ち上げ、組合員の安否確認や情報発信、全国支援を呼びかけることを確認しました。全労連及び、地方組織の皆さん、産別の皆さんからのご支援をお願い申し上げます。

2024年1月10日 石川県労連議長 桶間 諭

### 全労連で対策本部を設置

### 能登地震救援募金

名義：全国労働組合総連合  
入金先郵便振込 00170-3-426272

※通信欄に「能登地震救援基金」と必ず明記。募金は石川労連を通じて災害者支援に生かします。



### 寄り添う介護がしたいから集まる

入浴サービスを提供する「ひだまり入浴サロン」では、利用者が笑顔になれるサービスをめざすと同時に働きやすい職場づくりを心がけてきました。

5月の組合結成後のボーナスの支給実現に続いて最低賃金の引き上げの要求を出しています。今年も職員が笑顔で働ける職場を目指して着実に取り組んでいきたいと思っています。

#### 介護の現場から 医労連・松田さん



# 新春リレートーク 働きがいの ある職場を つくろう

みえ労連の組合員の皆さんに、2024年の抱負を聞きました。新年早々の災害、引き続き戦争のなか、「働きがいのある職場を」との願いが寄せられましたので紹介します。

### 子どもの成長にやりがい

保育士5年目になります。悩むこともあるけれど、里山に囲まれた環境で、子どもたちと木の実を拾ったり、保護者と園で収穫した藁を使ってしめ縄作りをしたりと、自分のやりたいことも一緒に楽しみながらすごすことができている。子どもたちの姿を担当同士で話し合い、共感したり、時には一緒に悩んだりしながら成長を見守ることができることにやりがいを感じます。



組合活動では長く働きたいと思える様なライフスタイルにあった働き方ができる様に、要望を理事会に提出する等活動しています。

#### 保育の現場から 自治労連・安田さん



### ハラスメントの改善が課題

働き甲斐を具体的に言い換えると「残業が少ない」「公平評価」「人間関係が良好」「福利厚生が充実」などと云われます。最も影響が大きいのは人間関係ではないでしょうか。

残念ながら昨年はハラスメントで退職や休職になってしまった事案が発生し、職場における心理的安全性は後退しています。ハラスメント予防を具体化するのには難しいですが、労働組合としては、より相談されやすい体制づくりに取り組んで参ります。

#### 生協の現場から 生協労連・水野さん

### スタッフの増員いそいで

わたしたち全医労は、新型コロナでは国や県の要請のもと病床削減を行い、看護・介護に邁進してまいりました。

また、1月1日に発生した能登半島地震では、DMAT(災害医療派遣)を現地に派遣しています。市民の皆さんが安心して医療を受けられるには医師・看護師・介護ケア職員等の大幅増員と賃金改善・職場環境の改善が必要です。要求実現に全力で取り組んでいます。

#### 医療の現場から 全医労・三島さん



### 授業の準備は勤務です

学校の非常勤講師には、正規教員の「残業代を支払わない」と定めた法律が適用されないため、労働基準法が適用されます。今は 校長から命じられた以上の授業の準備や後の処理は労働時間に含まれずサービス労働になっています。

今回、時間外の支払いを求めた措置要求に、県人事委員会の判定は棄却という結果でした。しかし付言として「事前に報告、相談等をする事なく、事後に支払を求めた要求は認められるものではないが、勤務状況を把握して、適切な制度運用に努められることを期待する。(要約)」としました。 反対に、所定時間外に勤務を行うときは校長に「報告、相談」をすれば、時間外が認められるという解釈ができるので、そのことを広く周知し、時間外未払いの改善につなげたい。

#### 教育の現場から みえ教育ネット・大原さん



### 災害交流会を計画

三重県国公の新年の抱負ですが、昨年に引き続き単組間の交流を通じて組織を強く大きくしていきたいと思っています。

とりわけ、第一弾としては新年早々の災害を踏まえ、5月下旬～6月上旬をメドに地域の自治体や消防署にも働きかけ合同の「防災交流会」を配置(コラボ)したいと思っています。公務の職場に働く労組として、何ができるのか正直言ってわかりませんが、交流をはかりながら一つでも多く「役に立つ・ためになる活動」をするなか、連帯感を養っていききたいと思っています。

#### 国公の現場から 三重県国公・神部さん



### 外国人労働者の名古屋高裁支援を

日本で働く外国人は、習慣や言葉の壁で悩んでいる人が多いです。私は、労働者として権利や主張ができることを労働組合結成で学びました。会社と団体交渉を重ねる中で、男女賃金差別をなくすことができました。

このことは、同じ会社で働く派遣従業員や請負で働く労働者にも波及しました。昨年の春闘では5%の賃上げも取れました。しかし、まだまだ正社員との差別待遇があります。愚痴だけでは職場は良くなりません。誰もが声を上げていきましょう。私たち60人の原告が、差別待遇で裁判闘争中です。

#### 製造の現場から 日東電工支部・井伊サンドラさん



### 新年を迎えて

みえ労連議長 新家忠文

年初早々発生した能登半島地震の犠牲者、被災者にお悔やみとお見舞いを申し上げます。新自由主義の弱肉強食政治が続き、羽田の航空機事故においても人員不足の陰がみえています。失われた公共を取り戻すたたかいが求められます。

昨年の全医労のストは、労働組合運動が声をあげて闘うことが注目されました。たたかいのなかで仲間を増やし、組合員の団結と行動で切実な要求を実現しましょう。

今年を、みえ労連の飛躍の年にしましょう。

### 大学の講師も労働者です

鈴鹿大学の非常勤講師、無期転換前に雇い止めにされかけ、団体交渉で阻止。

2019年度から無期転換。安堵もつかの間、翌年度に大幅減コマ、翌々年度には首切り。団体交渉では解雇か否かにも答えない態度で、2022年8月に提訴。団体交渉では労働委員会から不当労働行為と認定されるも、相変わらずの不誠実さ。無期転換後の首切りとしては全国初のケースです。無期転換制度を骨抜きにされないためにも闘っていきたく思いますので、ご支援よろしくお願ひいたします。

#### 大学の現場から 東海圏大学非常勤講師組合・大本さん

